

Topics 福島は、原子力機構が行っている福島対応などの活動を紹介するものです。

カザフスタン原子力庁局長が、伊達市の除染現場を視察

カザフスタン共和国シガナコフ原子力庁科学技術開発局長が10月30日、伊達市が実施している除染現場と原子力機構の福島環境安全センターを視察されました。

当日は伊達市の協力をいただき、伊達市小国ふれあいセンターの近くにある一般住宅で、除染作業（樹木周りの落葉掻きや表土剥ぎ）の様子（＝写真下）や近くにある除去物の仮置き場を視察。その後は福島環境安全センターの事務所で原子力機構の職員と、原子力機構の福島での取り組みや除染の方法などについて、カザフスタンでの経験を踏まえながら意見交換を行いました（＝写真上）。なお旧ソ連時代にカザフスタンのセミパラチンスクは水爆の実験場となったため、同国は広大な土地の除染を手がけた経験をもっています。同氏は日本の進んだ除染技術や放射線測定技術に深い興味を示し、この分野において協力していきたいと述べられました。

「原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とカザフスタン共和国政府との間の協定（日・カザフスタン原子力協定）」が昨年5月に発効しました。また、本年5月には、枝野経済産業大臣（当時）がカザフスタンを訪問された際、カザフスタン国立原子力センターと株式会社東芝との間で「放射性廃棄物の処理技術のための検討に関する覚書」が締結されました。これらの背景のもと、高温ガス炉技術国際会議（HTR2012）の

特別講演のために来日された同氏から、東京電力福島第一原子力発電所事故による周辺地域への影響の調査と意見交換を行いたいとの要請があり、今回の会合が実現しました。

